



忘れ草のお話!!



ノカンゾウ



ヤブカンゾウ

「時の花」という言葉があります。その時節に咲く花のことです。6月末から7月半ばの時花（じか）に萱草（カンゾウ）があります。花が6弁一重のニッコウキスゲに似ているノカンゾウ、花が八重のヤブカンゾウです。江南以西の畦（あぜ）道や山辺でよく見かけます。吉岡地区では、八幡坂の途中にノカンゾウが、駐在所西方のお堂の墓所斜面にヤブカンゾウがオレンジ色の花を咲かせています。キスゲやカンゾウは、ユリ科ワスレグサ属の仲間です。朝咲いて夕方しぼむ一日花で、英名はdaylily（一日ユリ）、学名ヘメロカリスはギリシャ語で一日だけの美しい花という意味です。



八幡坂のノカンゾウ

日本では、カンゾウは「忘れ草」と呼ばれ、「憂いを忘れる草」、「恋を忘れる草」として、古（いにしえ）から親しまれてきた野草です。若葉は食用に、根は生薬としても利用されました。今から1250年程前の奈良時代後期に成立した最古の和歌集『万葉集』から現代までの多くの歌集に、忘れ草を詠（よ）んだ歌があります。大伴家持、小野小町、紀貫之、藤原定家、斎藤茂吉、山中智恵子などの著名な歌人が詠んでいます。また、俳句では、7月の季語で、正岡子規や高浜虚子、芥川龍之介などの著名人の句が残されています。



お堂下のヤブカンゾウ

道路や畦などの改良工事、外来種の繁茂、除草剤の過度の使用、畑や里山の放置、藪（やぶ）化など様々な原因から、古来からの野の花は減少しています。温故知新（昔のことをよく学び、現在の新しい事態に対処する知識を得ること）が大切です。

7月の里山活動は、7月13日（日）に行われました。自治会の皆様、中学校関係者、PTA、個人ボランティアなど、30名程の参加者が、中学校プール北側斜面の竹の間伐、西側雑木林の笹などの下草刈り、大学通り歩道の草取りを行いました。蒸し暑い中、熱中症に気を付けながら汗を流しました。植物にとっての好環境は風と光を通ることです！お陰様で、清々（すがすが）しい林になりました。お疲れ様でした。



写真担当：教頭先生



林の下草刈り



竹の間伐



歩道の除草

次回活動日

8月は休会

9月14日(日) 9:00~

里山整備を予定(吉中駐車場集合)



カラー版

熊谷市HPに掲載中！！

新聞記事から

2025/7/6 埼玉新聞より